

日本財団 ボランティアサポートセンター 研修内容に関する調査

第2回サーベイ 結果報告



目次

• 調査背景・概要		3
• 調査結果		5

調査背景・概要

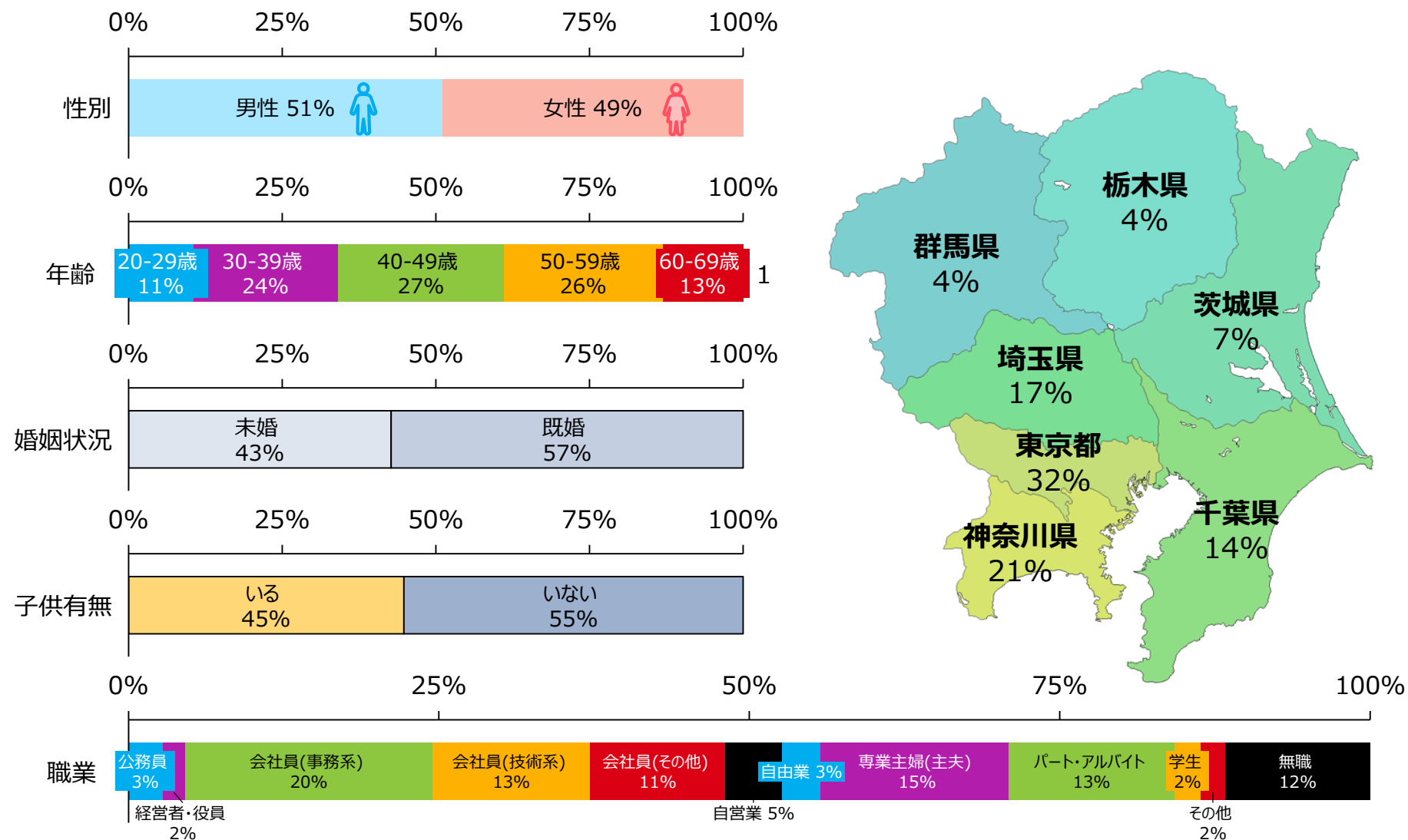


調査概要

- » 調査時期：2018/11/9～2018/11/11
- » 調査方法：インターネット調査
- » 調査対象：関東圏在住者の20代～60代
*都県ごとの人口構成比に合わせて回収
- » サンプル数：2,000サンプル
- » 調査地域：関東圏（1都6県：東京、神奈川、千葉、埼玉、茨木、群馬、栃木）
- » 設問数：10問

調査結果

回答者属性

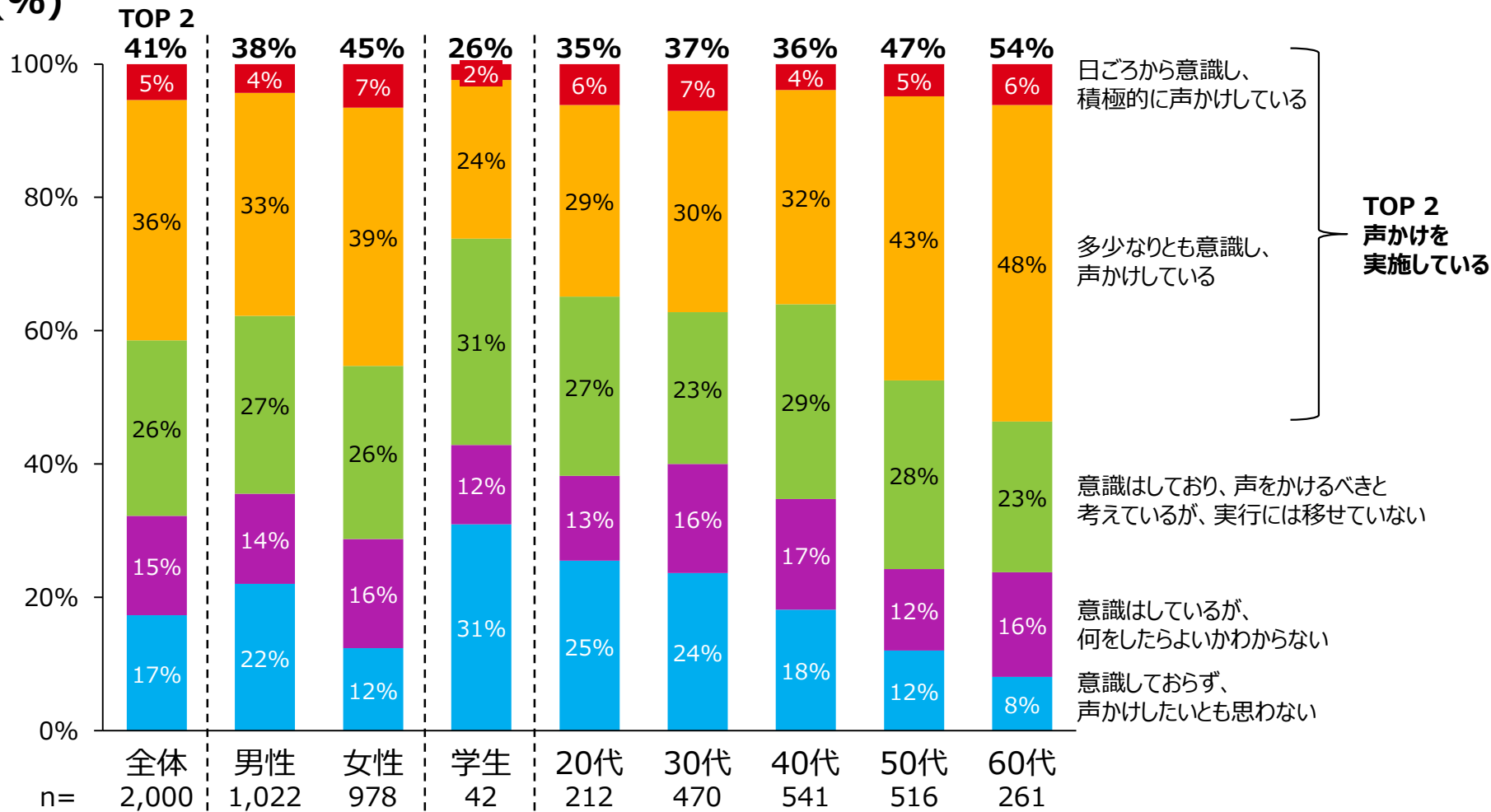


n = 2,000

Q1.『困っている人』に対する意識・声かけ

声かけを実施している割合は全体で41%。性別では女性、年代別では50代以上の実施割合が高く、学生では26%に留まる。

『困っている人』に対する意識・声かけへの実態 (%)

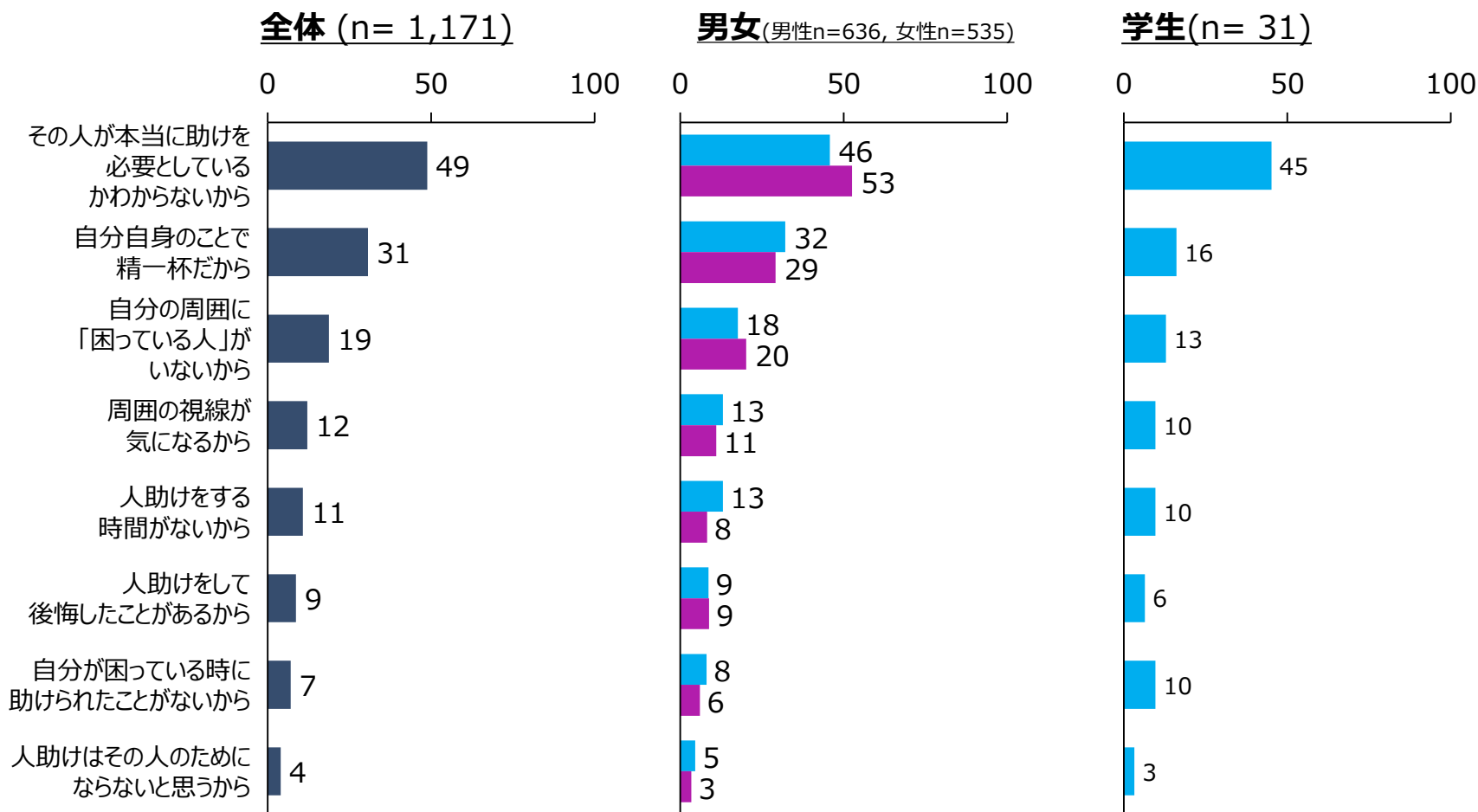


Q1.あなたは、日々の暮らしの中(仕事やプライベートどちらも含む)で『困っている人』を見かけたら、どういう行動をとりますか?最もふさわしいものをお選びください。

Q2.『困っている人』に対する意識・声かけを行わない理由（全体・性別・学生）

最も大きな理由は「その人が本当に助けを必要としているかわからないから」（49％）で、「自分自身のことで精一杯だから」（31％）が続く。

『困っている人』に対する意識・声かけを行わない理由* （％）



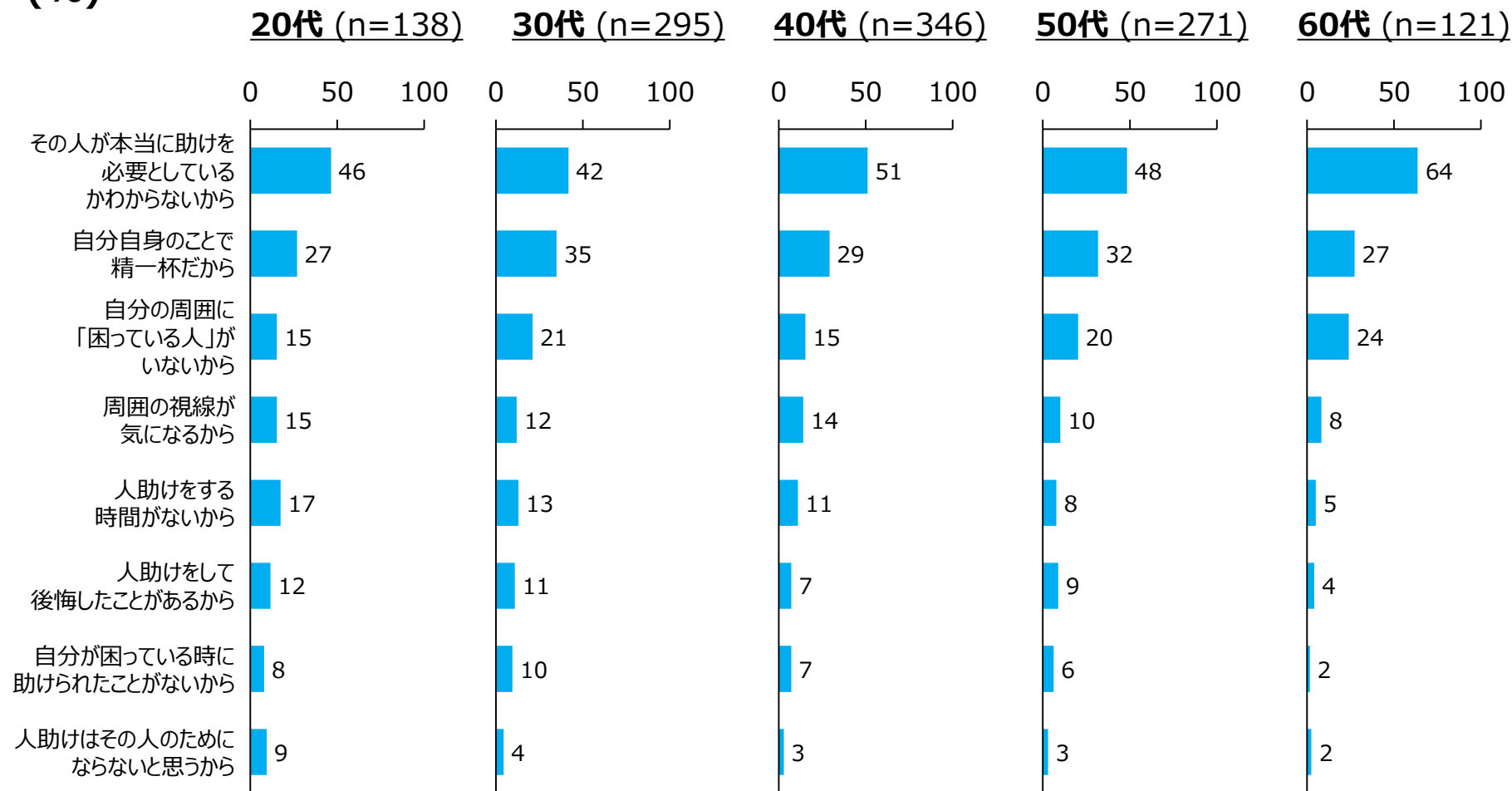
Q2.『困っている人』に対する意識・声かけについて、『○○○(Q1回答テキスト再掲)』とお答えいただきましたが、その理由としてあてはまると思うものをお選びください。（いくつでも）

*ベース：「困っている人」に声かけを実施できていない人

Q2.『困っている人』に対する意識・声かけを行わない理由（年代別）

年代問わず「その人が本当に助けを必要としているかわからないから」が最も高く、「自分自身のことで精一杯だから」が続く。

『困っている人』に対する意識・声かけを行わない理由* (%)



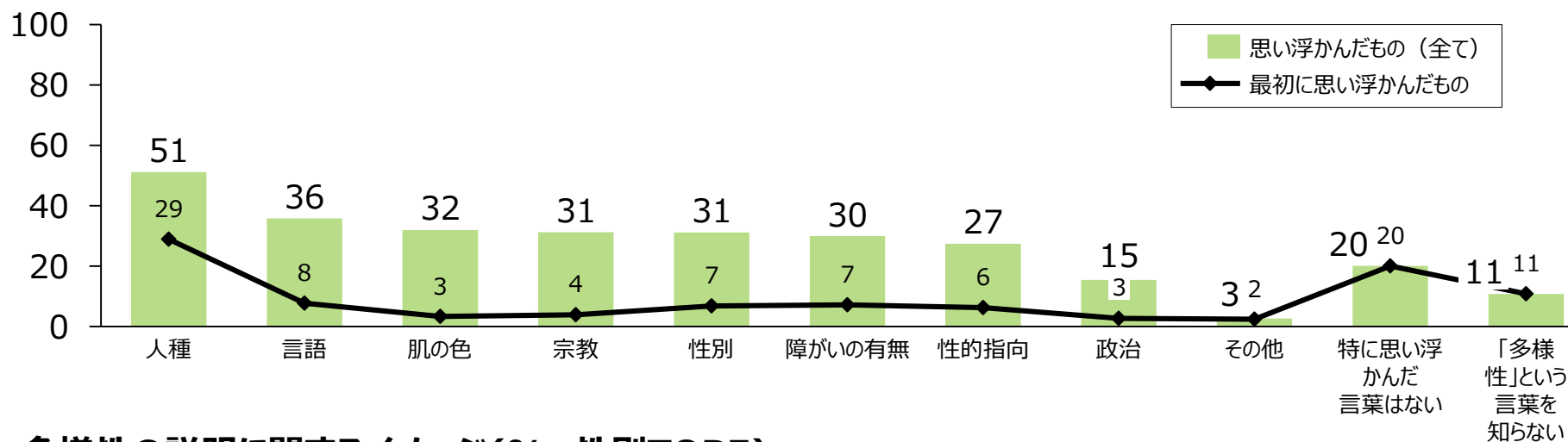
Q2.『困っている人』に対する意識・声かけについて、『○○○(Q1回答テキスト再掲)』とお答えいただきましたが、その理由としてあてはまると思うものをお選びください。（いくつでも）

*ベース：『困っている人』に声かけを実施できていない人

Q3. 「多様性」に関するイメージ（全体、性別TOP5）

複数回答においては、「人種（51%）」が最も高く、「言語（36%）」が続く。
「障がいの有無」は複数回答で30%、最初に思い浮かんだもの（第一想起）で7%に留まる。

多様性に関するイメージ （%, 全体, n=2,000）



多様性の説明に関するイメージ（%, 性別TOP5）

◆ 男性(n=1,022)

思い浮かんだもの全て		最初に思い浮かんだもの	
人種	50%	人種	27%
言語	35%	特に思い浮かんだ言葉はない	20%
性別	31%	「多様性」という言葉を知らない	11%
肌の色	31%	言語	8%
宗教	30%	障がいの有無	6%

◆ 女性(n=978)

思い浮かんだもの全て		最初に思い浮かんだもの	
人種	53%	人種	31%
言語	37%	特に思い浮かんだ言葉はない	20%
肌の色	33%	「多様性」という言葉を知らない	11%
宗教	32%	障がいの有無	8%
性別	31%	言語	8%

Q3. 「多様性」という言葉について、どのような内容をイメージしましたか。以下の選択肢の中から①思い浮かんだもの②そのうち最初に思い浮かんだものをお選びください。

Q3. 「多様性」に関するイメージ（年代別、学生TOP5）

複数回答、第一想起共に全ての年代で「人種」の回答割合が最も高い。学生に関してのみ、「言語」の回答割合が「人種」を上回っている。

多様性の説明に関するイメージ(%、年代別・学生TOP5)

◆ 20代 (n=212)

思い浮かんだもの全て		最初に思い浮かんだもの	
人種	45%	人種	27%
言語	33%	特に思い浮かんだ言葉はない	20%
肌の色	31%	「多様性」という言葉を知らない	12%
性別	28%	言語	10%
宗教	26%	性的指向	8%

◆ 30代(n=470)

思い浮かんだもの全て		最初に思い浮かんだもの	
人種	46%	人種	24%
言語	33%	特に思い浮かんだ言葉はない	19%
肌の色	30%	「多様性」という言葉を知らない	14%
性別	29%	言語	8%
宗教	27%	性的指向	8%

◆ 40代(n=541)

思い浮かんだもの全て		最初に思い浮かんだもの	
人種	51%	人種	30%
言語	36%	特に思い浮かんだ言葉はない	20%
宗教	30%	「多様性」という言葉を知らない	12%
障がいの有無	29%	言語	9%
性別	29%	障がいの有無	7%

◆ 50代(n=516)

思い浮かんだもの全て		最初に思い浮かんだもの	
人種	59%	人種	34%
言語	38%	特に思い浮かんだ言葉はない	20%
肌の色	36%	性別	8%
宗教	35%	障がいの有無	8%
性別	34%	「多様性」という言葉を知らない	8%

◆ 60代(n=261)

思い浮かんだもの全て		最初に思い浮かんだもの	
人種	52%	人種	26%
障がいの有無	39%	特に思い浮かんだ言葉はない	23%
言語	39%	障がいの有無	11%
肌の色	38%	「多様性」という言葉を知らない	7%
宗教	38%	性別	7%

◆ 学生(n=42)

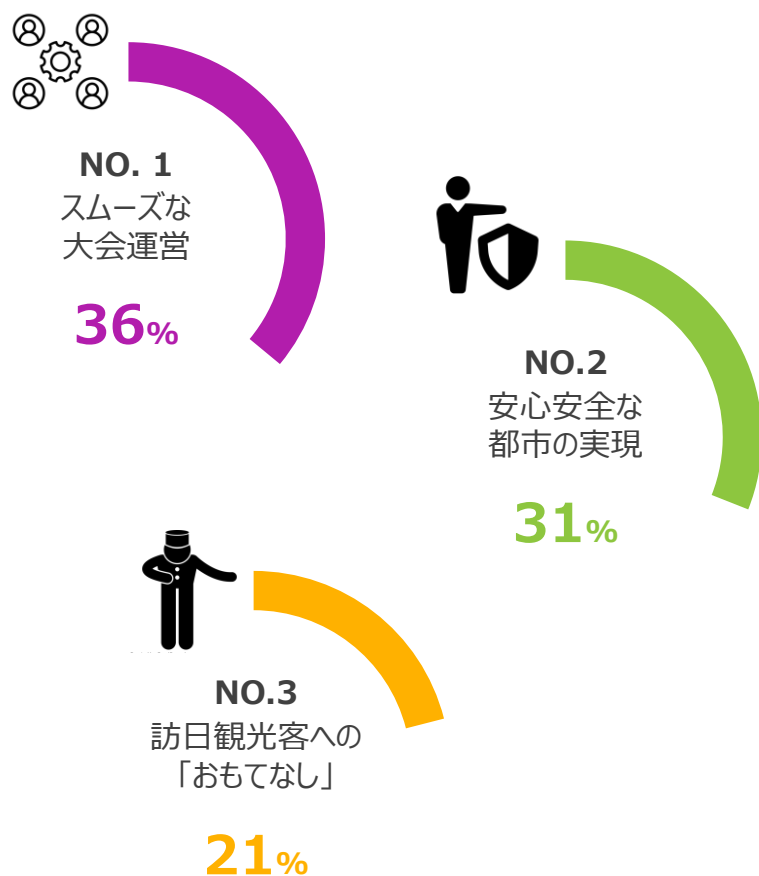
思い浮かんだもの全て		最初に思い浮かんだもの	
言語	50%	人種	24%
人種	48%	言語	21%
肌の色	36%	特に思い浮かんだ言葉はない	17%
障がいの有無	36%	「多様性」という言葉を知らない	12%
宗教	26%	性別	7%

Q3. 「多様性」という言葉について、どのような内容をイメージしましたか。以下の選択肢の中から①思い浮かんだもの②そのうち最初に思い浮かんだものをお選びください。

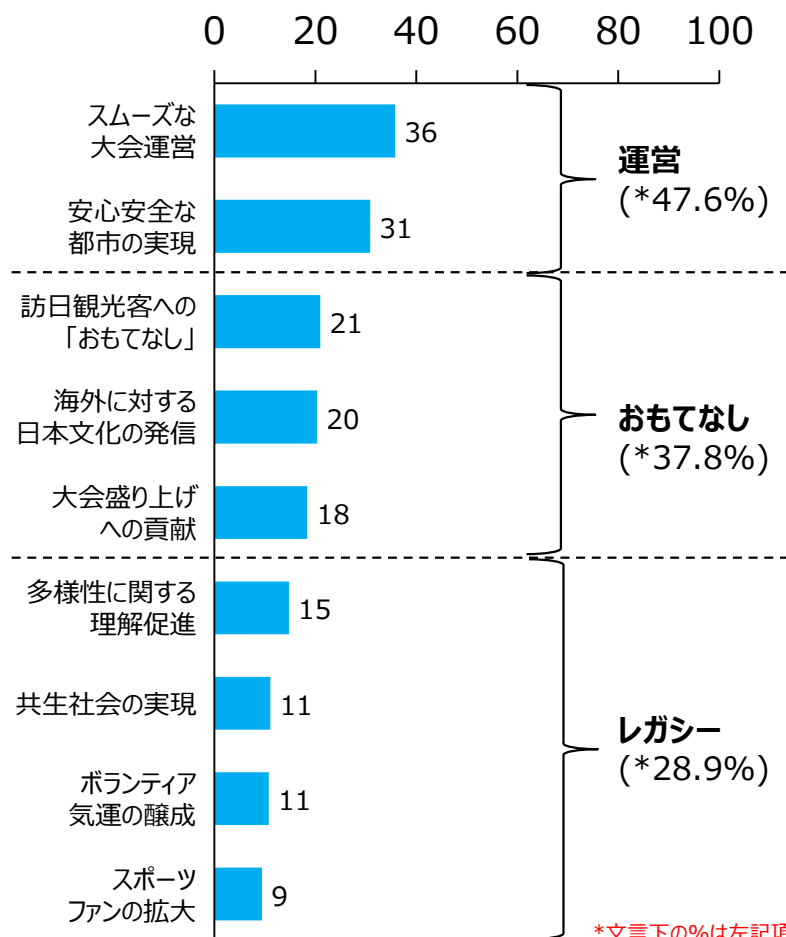
Q4. 東京オリパラボランティアに対して期待すること（全体）

「スムーズな大会運営」（36%）「安心安全な都市の実現」（31%）と、運営に関する項目が上位を占めており、全体の約半数がいずれかに回答。一方、レガシーに関連する回答割合は3割をやや下回る程度。

東京2020ボランティアに対して期待すること TOP 3



東京2020ボランティアに対して期待すること (% , n=2,000)



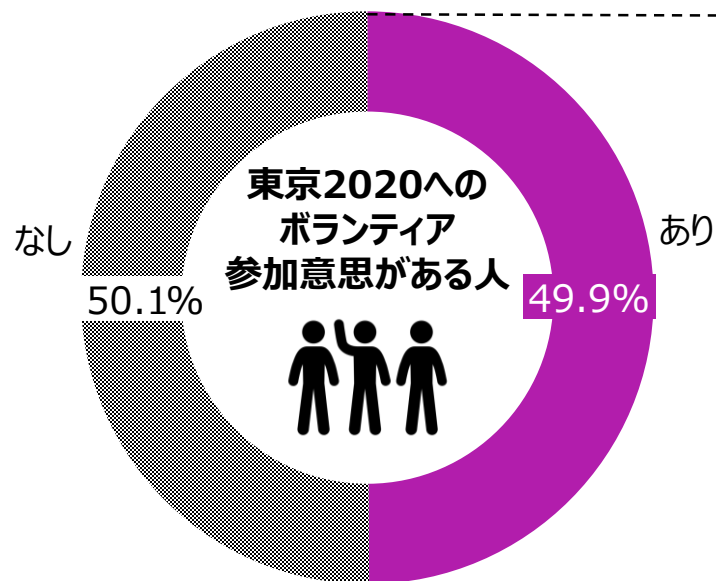
*文言下の%は左記項目
いずれか回答者の割合を表す

Q4. 東京2020オリンピック・パラリンピックのボランティアに対して、どのようなことを期待しますか。あてはまるものをすべてお選びください。（いくつでも）

Q5. 東京2020ボランティア参加意向・参加にあたって期待する点（全体）

参加意向者は全体の約半数。参加意向者の期待として「自分自身の視野を広げる」（29%）「一生に一度の経験をする」（26%）「普段接しない人とのふれあい」（26%）などが上位に挙げられた。

東京2020ボランティア参加意向 (% , n=2,000)



参加にあたって期待する点 (% , n=998*)

自分自身の視野を広げる	29.1%
一生に一度の経験をする	26.4%
普段接しない人とのふれあい	25.5%
国際交流	21.2%
ボランティアを通じて社会とつながる	20.7%
コミュニケーションスキルの向上	19.9%
「人助け」を出来るようになる	19.3%
日本の良さを海外に伝える	19.2%
海外からのお客さんをサポートする	18.5%
自身の知識・経験を活かして大会に貢献する	13.0%
ネットワークを広げる	12.0%
将来のキャリアに繋げる	8.6%
ボランティアを通じて社会を変える	7.9%

Q5.東京2020オリンピック・パラリンピックに対して、もしあなたが自身がボランティアに参加するとしたら、どのようなことを期待しますか。（いくつでも）

*ベース：東京2020ボランティア参加意向者

Q5. 東京2020ボランティア参加にあたって期待する点（性別・学生TOP5）

上位項目は男女で大きな違いは見られないが、女性の回答割合が男性と比べてやや高い。

東京2020ボランティア参加にあたって期待する点(%,性別・学生TOP5*)

◆ 男性 (n=510)

自分自身の視野を広げる	25.1%
一生に一度の経験をする	24.1%
普段接しない人とのふれあい	22.0%
国際交流	20.2%
コミュニケーションスキルの向上	19.4%

◆ 女性(n=488)

自分自身の視野を広げる	33.2%
普段接しない人とのふれあい	29.1%
一生に一度の経験をする	28.7%
ボランティアを通じて社会とつながる	23.2%
国際交流	22.3%

◆ 学生(n=22)

ボランティアを通じて社会とつながる	27.3%
普段接しない人とのふれあい	22.7%
国際交流	22.7%
ネットワークを広げる	22.7%
自分自身の視野を広げる	18.2%

Q5.東京2020オリンピック・パラリンピックに対して、もしあなたが自身がボランティアに参加するとしたら、どのようなことを期待しますか。（いくつでも）

*ベース：東京2020ボランティア参加意向者

Q5. 東京2020ボランティア参加にあたって期待する点（年代別TOP5）

「自分自身の視野を広げる」「一生に一度の経験をする」「普段接しない人とのふれあい」は年代問わず上位に。
60代の回答割合が他年代と比較して高くなっている。

東京2020ボランティア参加にあたって期待する点(%,年代別TOP5*)

◆ 20代 (n=115)

普段接しない人とのふれあい	26.1%
自分自身の視野を広げる	25.2%
国際交流	24.3%
「人助け」を出来るようになる	21.7%
一生に一度の経験をする	20.9%

◆ 30代(n=261)

自分自身の視野を広げる	28.7%
一生に一度の経験をする	24.1%
普段接しない人とのふれあい	21.1%
ボランティアを通じて社会とつながる	20.3%
コミュニケーションスキルの向上	19.9%

◆ 40代(n=247)

一生に一度の経験をする	28.3%
自分自身の視野を広げる	24.7%
普段接しない人とのふれあい	24.3%
国際交流	21.1%
海外からのお客さんをサポートする	19.8%

◆ 50代(n=249)

普段接しない人とのふれあい	28.5%
一生に一度の経験をする	27.7%
自分自身の視野を広げる	27.3%
日本の良さを海外に伝える	25.3%
海外からのお客さんをサポートする	22.5%

◆ 60代(n=126)

自分自身の視野を広げる	45.2%
ボランティアを通じて社会とつながる	32.5%
普段接しない人とのふれあい	30.2%
国際交流	30.2%
一生に一度の経験をする	29.4%

Q5.東京2020オリンピック・パラリンピックに対して、もしあなたが自身がボランティアに参加するとしたら、どのようなことを期待しますか。（いくつでも）

*ベース：東京2020ボランティア参加意向者

Q6. 東京2020ボランティア参加における不安

「語学力」(38%)「時間的な負担」(32%)「金銭的な負担」(28%)が上位に。属性別では20代で「金銭的な不安」(26%)が「語学力が必要」(20%)を上回っている。

東京2020ボランティア参加における不安(%*)

	全 体	男性	女性	学生	20代	30代	40代	50代	60代
n=	998	510	488	22	115	261	247	249	126
語学力が必要	38%	35%	42%	18%	20%	32%	38%	43%	59%
時間的な負担	32%	31%	33%	9%	23%	29%	31%	36%	42%
金銭的な負担	28%	28%	28%	41%	26%	23%	31%	31%	33%
スケジュール（大会期間中に自分自身が参加できるか）	25%	22%	28%	18%	18%	25%	28%	29%	20%
外国人との関わり方	25%	23%	27%	18%	26%	25%	23%	20%	36%
体力	24%	16%	32%	14%	17%	15%	23%	29%	40%
専門的な能力が必要	17%	14%	21%	9%	12%	15%	15%	19%	29%
希望業務に就けるかわからない	15%	14%	16%	5%	16%	14%	15%	14%	18%
会社からの理解	15%	19%	11%	5%	15%	15%	18%	14%	10%
大会期間中の気候	13%	13%	14%	18%	14%	9%	14%	13%	22%
ボランティアメンバーとの関わり方	12%	11%	12%	14%	13%	12%	9%	11%	14%
障がい者（ボランティア以外）との関わり方	11%	10%	11%	0%	12%	9%	9%	11%	16%

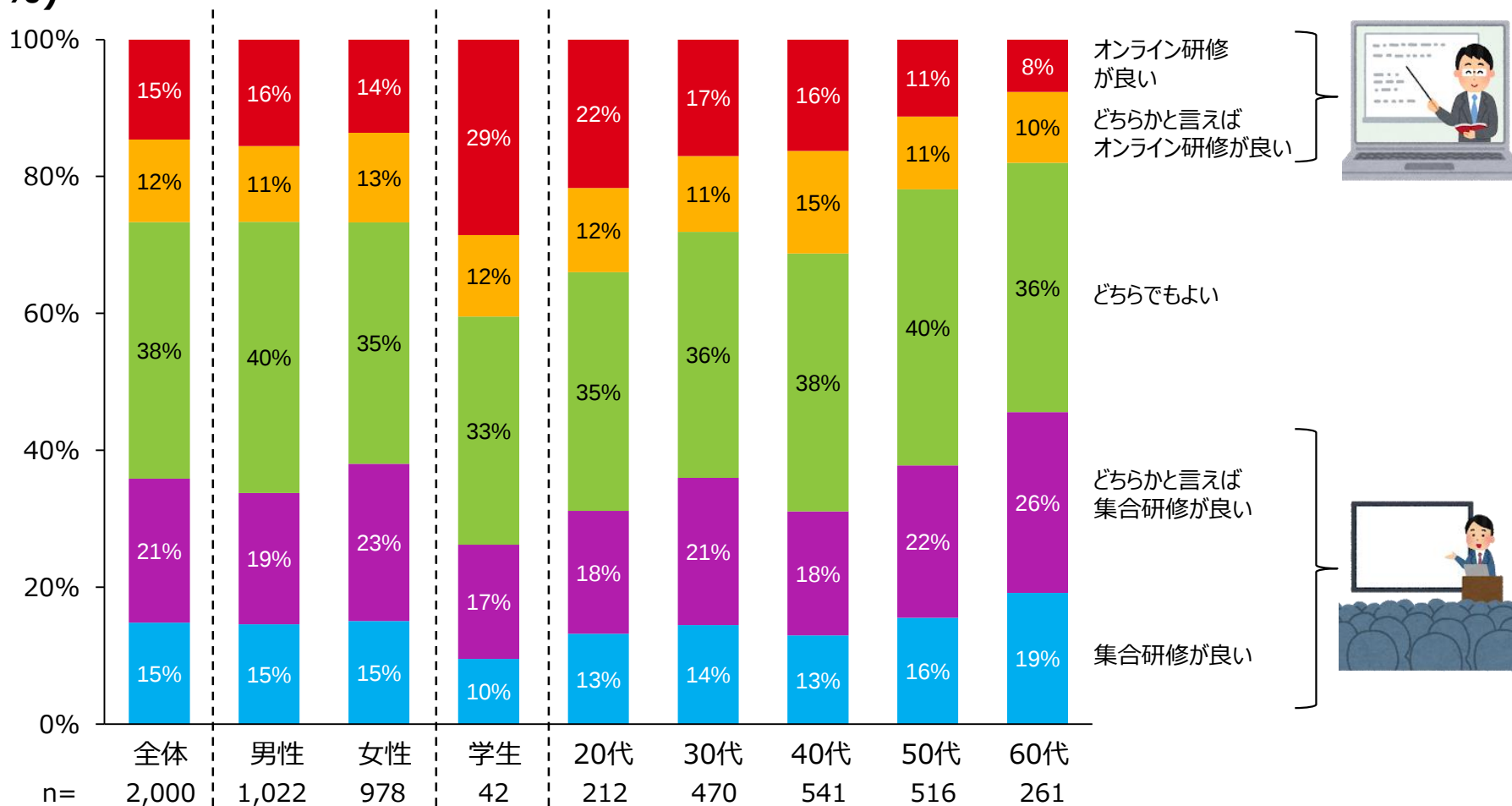
Q6.東京2020オリンピック・パラリンピックに対して、もしあなたが自身がボランティアに参加するとしたら、どのようなことが不安に感じますか。

*ベース：東京2020ボランティア参加意向者

Q7. 大規模スポーツイベントにおけるボランティア説明会・研修方法

全体では集合研修希望者（36%）がオンライン研修希望者（27%）をやや上回る結果に。若年層ほどオンライン研修希望者の割合が高く、学生ではオンライン研修希望者（41%）が集合研修希望者（27%）を大きく上回っている。

大規模スポーツイベントにおけるボランティア説明会・研修方法（%）



Q7. 大規模なスポーツイベント(オリンピック・パラリンピック、サッカーやラグビーのワールドカップ)では、大会ボランティアに応募いただいた方に対して、下記のような説明会・研修を実施しています。もしご自身が大会ボランティアに参加する場合、どのような形式の研修を希望されますか。

Q8. 大規模スポーツイベントのボランティア研修をオンラインで希望する理由

「時間を気にせず研修を受けられること」が属性問わず最も高く、全体の62%。

大規模スポーツイベントのボランティア研修をオンラインで希望する理由 (%*)

	全 体	男性	女性	学生	20代	30代	40代	50代	60代
n=	533	272	261	17	72	132	169	113	47
時間を気にせず 研修を受けられること	62%	59%	66%	65%	57%	55%	62%	70%	74%
自宅や職場など、 場所を気にせず 研修を受けられること	44%	41%	47%	41%	40%	41%	47%	42%	51%
他の予定との調整を しないで済むこと	41%	35%	46%	53%	46%	44%	40%	31%	47%
繰り返し学習 できること	40%	42%	38%	12%	32%	43%	39%	42%	43%

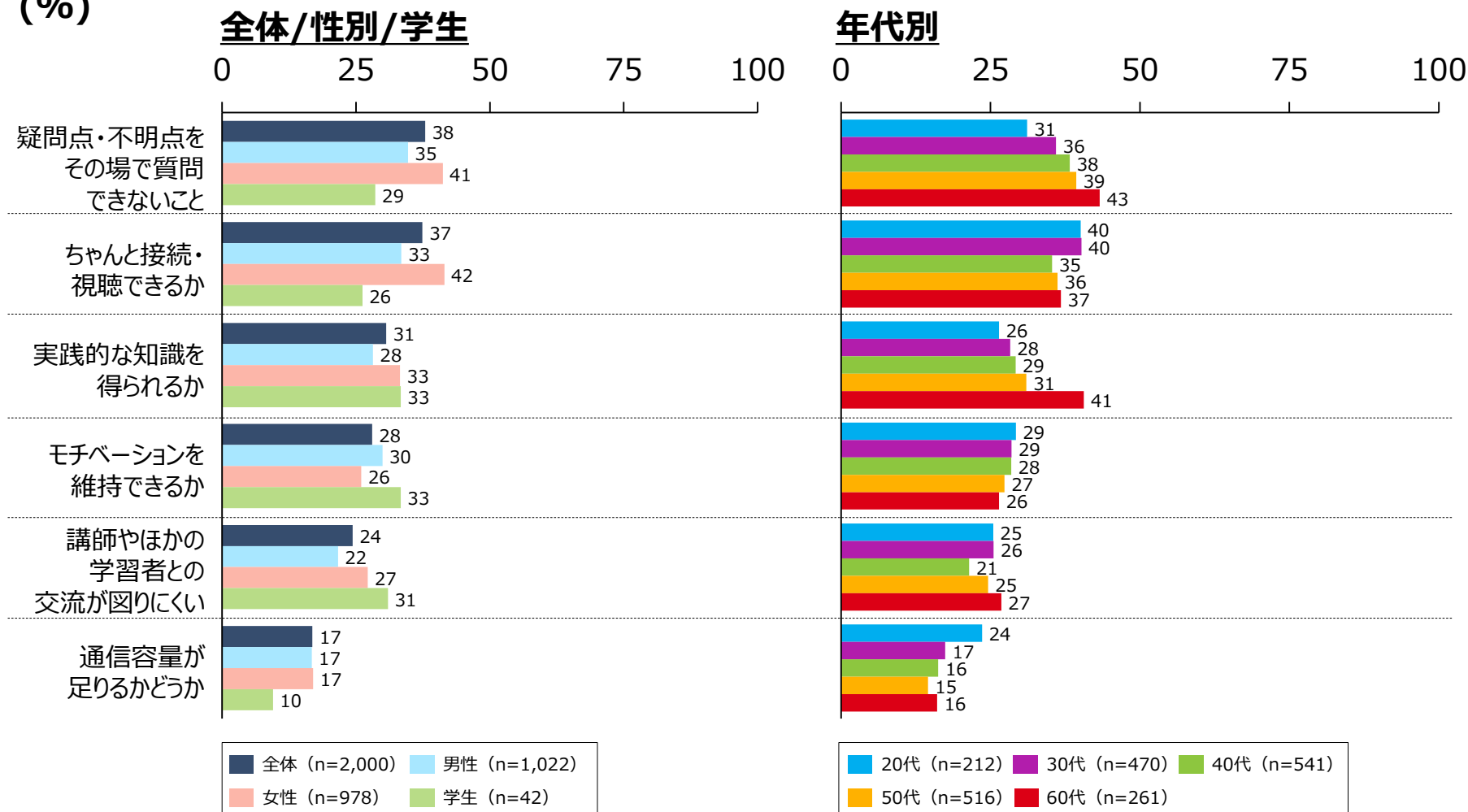
Q8.オンライン研修 を希望されるとお答えになった理由について、あてはまるものをお選びください。

*ベース：オンライン研修希望者

Q9. ボランティア説明会・研修をオンラインで受講する上での不安点

「疑問点・不明点をその場で説明できないこと」(38%)「ちゃんと接続できるか」(37%)が上位に。
年代別では高齢層ほど回答割合が高くなる傾向が見られ、「実践的な知識を得られるか」は60代で41%。

大規模スポーツイベントにおいてボランティア説明会・研修をオンラインで受講する上での不安点 (%)



Q9.もしご自身が (B) オンライン研修を受講する場合、どのような点が不安に感じますか。あてはまるものをお選びください。